

東京2020オリンピックへの取り組み

南会津町 × アルメニア共和国

大会ホストタウン
シリーズ4

アルメニア共和国の料理を 学校給食で提供

1月24日、伊南・南郷小学校と南会津中学校の3校の学校給食で、アルメニア共和国にちなんだ料理が提供されました。

「アルメニアお祭りライス」と称した献立は、バター風味のレーズン入りご飯や、チキン・アララト、カラフルスープなどの数々。

伊南小学校では、アルメニア共和国の紹介なども行われ、おいしい給食に舌鼓をしながら、同国に対する理解を深めました。

全国学校給食週間*（1月24日～30日）の一環として実現した今回の企画。

子どもたちにホストタウンとしての取り組みをPRし、東京2020五輪・パラリンピックに向けた機運の高揚と、アルメニア共和国を知っていただく機会になりました。

初めて目にする料理に驚きを隠せない子どもたちも、食べ物に対する感謝の気持ちを持ちながら、とても美味しく食べていました。



全国学校給食週間とは

日本の学校給食は明治22年に始まって以来、各地に広がっていききましたが、戦争の影響などによって中断されました。

戦後、食糧難による児童の栄養状態の悪化を背景に、学校給食の再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA（Licensed Agencies for Relief in Asia：アジア救済公認団体）から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開されました。

同年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と定めるとともに、昭和25年度から、学校給食による教育効果を促進する観点から、冬季休業と重ならない1月24日から30日までの1週間を「学校給食週間」としました。

子どもたちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、偏った栄養摂取、肥満傾向など、健康状態が懸念される点が多く見られる今日、学校給食は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるために重要な役割を果たしています。

このような学校給食の意義や役割を、児童生徒や教職員、保護者や地域住民が理解を深め、さらに関心を高めていただくために、学校給食週間中は全国でさまざまな行事が行われます。